



8月の園だより

令和5年8月1日

目黒区立駒場保育園 園長

真夏の太陽が照り付ける中、園庭の田んぼの稲が青々と育っています。先日年長児が「ねえ、聞いてごらん、ほらセミが鳴いているでしょ」と両手を耳に当て室内まで聞こえるセミの鳴き声を教えてくれました。この夏初めて聞くセミの声を共有したかったのでしょうか。その後も園庭の桜の木から沢山のセミの音が聞こえる中、子どもたちは元気に夏の遊びを満喫しています。

今年からヒーローバスで送迎し北部地区の私立園に専用のプールを貸し出しています。同じ目黒の子どもたちが笑顔でプール遊びを楽しんでいる姿を嬉しく思います。駒場保育園の幼児のプール活動でも水と親しみながら友達の姿を見て“面白そう”“あんな泳ぎができるようになりたい”など目標を持って挑戦しようとしています。プールサイドの水遊びの場面です。水を張った大きなたらいにスーパーボールがいくつも入っているのですが、逆さにしたバケツの底や、ひしゃくの底にスーパーボールを落としてみると、当たった時の音の違いに気づき目を丸くしています。次にはスーパーボールの大きさを変えたり、落とす高さを変えたりして音の違いを様々に試していました。また、一方では水鉄砲を真上に向けて発射させると自分にかかることが面白く、それを見て同じように始めた友達の頭の上にかかるように、水鉄砲の角度を調節し水が落ちてくる間をドキドキしながら待ち、お互いの頭に命中すると大笑いして二人で何度も繰り返していました。水は上に発射しても下に落ちてくること、角度によって落ちる場所が変わることを遊びながら知ったことでしょう。

今月も熱中症対策をしながら、夏の遊びを通して不思議さや面白さを感じ、好奇心や五感を刺激する遊びを取り入れ、共に発見したり共感したりしていきたいと思います。

<8月の予定>

18日(金) 0歳児健診

31日(木) 水遊び・プール終了
避難訓練 身体計測

* 9月6日(水) 引き渡し訓練

詳細は後日、配信します。

* 10月7日(土) 運動会

2, 3, 4, 5歳児クラス

園庭で行います(雨天時第一中学校体育館)。

さくら組 収穫だより

さくら組はきゅうり、おくら、枝豆、じゃがいもを育てていて、毎日水やりをして生長を見守ってきました。日照時間が長くなってからは更に生長が著しく、数日できゅうりが20センチほどの大きさになりました。その生長の早さに子どもたちは驚き、「おばけきゅうりだ!」と言ってから、大きくなると“おばけ”と名付けて呼び、野菜の生長を楽しみにしています。



すみれ組 ピーラー活動

すみれ組は6月からピーラーを使った食育活動を始めました。初めてきゅうりの皮をむいた時は少し緊張した表情でしたが、その日の給食のきゅうりを見て、「すみれさんが皮をむいたきゅうりだ」と嬉しそうに食べていました。後日、「お家でもきゅうりとか、人参の皮むきをしたよ」と話す子どももいました。これから色々な食材の皮むきを通して食べる意欲につなげていきたいと思います。



今月は0・1・2歳児クラスの水遊びや感触遊びの様子をお伝えします。

ひよこ組 「初めての水遊び」

保育士がタライの水をひしゃくですくい高いところからこぼして見せると、わぁという表情で傍にくる子、キョトンとする子と様々でした。何回か経験するうちにジョウロから出る水に喜んで手を伸ばして触るようになりました。冷たい感触が気持ちいいようです。また、水の入ったお皿の水面をペチペチ叩くと顔に水しぶきが飛び一瞬驚いて目をつむります。目が合った保育士が「びっくりしたね」と表情で伝えるとニコッと笑い、再びペチペチと叩いて遊び、最後はお皿をひっくり返してこぼします。「なくなっちゃったね」と声を掛けるとお皿の中を不思議そうに見ていました。水の不思議さや冷たさを感じていることでしょう。



ちゅうりっぷ組 「真似をして」

水遊びが大好きな子どもたちは、準備が出来ると一目散にテラスへと向かい、タライの中に入っている水に触れたり、ひしゃくで水をぐるぐるかき混ぜたりして遊んでいます。

保育士がプランターに水やりするのを見て“やってみよう”と思ったようで、洗面器を持ってきてタライから水を汲み、プランターまで運ぼうとしています。水が入った洗面器は少し重く水も揺れてバランスをとるのが難しく、どんどん水がこぼれてしまうのですが、頑張って運んでいました。プランターまでもう少しというところで勢いよく水が全部こぼれてしまうと、水音と感触が楽しかったようで、今度は洗面器に水を汲んで、床に何度も勢いよくこぼして、自分にかかるたくさんの水に笑顔になっていました。水に触れる気持ちよさを感じ、ダイナミックに楽しんでいます。



たんぼぼ組 「やってみよう！」

子どもたちはテラスに出ると思い思いの容器や玩具を手にタライに向かい、ひしゃくで水を汲んでペットボトルに水を溜めたり、両手に形の違うプリンカップを持って水を移し替えたりして遊び始めます。2リットルのボトルにひしゃくで水を溜めていた子が、ジョウゴを見つけて口に差して入れました。庭でペットボトルにジョウゴで砂を入れた時は、途中で詰まってしまったこともありましたが、水が素早くどんどん流れて溜まっていくと嬉しそうです。一方では、マヨネーズの空き容器にひしゃくで水を入れ始めた子がいました。口は直径5mm程しかないのに殆ど水はこぼれてしまいましたが、それでも何度もタライから水を汲んでは入れることをくり返します。なかなか水が溜まらないうちは、次はジョウロに入れてみて、最後には手で水を掴んで入れてみようとしていました。冷たい水の感触を楽しみながらも“こうしたらどうなるかな”と考えながら、あれこれ試してみようとする子どもたちの姿がたくさん見られているたんぼぼ組です。

